

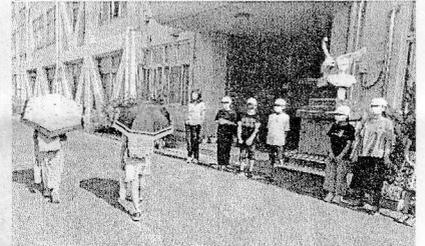
## みんなもえがおになるために

あじさいの花が雨に映える季節になりました。例年よりずいぶん早かった梅雨入りと緊急事態宣言の延長が重なり、子どもたちもたくさんの我慢をする生活が続いています。外で思いきり友達と遊び大声ではしゃぐ、そんな当たり前の日常さえ抑え込まなければならぬくらいは本当に不自由です。それでも、一生懸命感染予防に努める子どもたちの姿を見るにつけ、一日も早い事態の終息を願わずにはられません。

この頃、6年生の子どもたちが放課後に運動場へ遊びに来ることがあります。ボールを蹴って遊びたいときは、必ず職員室までやってきて、許可をとってから遊んでいます。運動場には「わかたけクラブ」の低学年の子どもたちも大勢遊んでいるため、ちゃんと自分たちで声をかけあって危なくないように気をくばりながら遊んでいます。さすがは6年生です。ボールを蹴る方向や遊ぶエリアなどよく考えてくれています。また、4年生の子どもたちは、始業前や業間休憩にせつせと中庭を掃除してくれています。学校のみんなのために何かできることはないかと考えて、自主的に行っているそうです。こうした気づかいが自然にできる御野っ子の姿をととても頼もしく思います。

ところが、一方で、地域のくらしの中では、狭い道路で大声を出しながら遊んだり、よそのお家の壁や車にボールを当てたりして、ご迷惑をおかけしている子どももいると聞いています。地域の方がその都度注意をしてくださっているようですが、何度言われても無視をしたり、「自分だけではないのに、なぜ注意をされなければいけないのか。」と言いつけたりする子もいるそうです。一部の子どものためにはありますが本当に残念なことです。コロナ禍で在宅ワークや外出を控えてお家で過ごされる方が増えているだけに、子どもたちの遊ぶ様子が以前よりさらにお邪魔になっているとも考えられます。子どもは元気に遊ぶものです。でも、だからといって、道路をふさいだり、よそのお家の前で大きな音や声を出していいわけではありません。自分たちの行動が周囲に迷惑になっていることに気づかないのはどうでしょうか。

先週の全校朝会では、そうした子どもたちの様子について触れ、「気づかい」の大切さについて話しました。御野小学校の学校教育目標は、「わたしもえがお、みんなもえがお」です。この「みんな」というのは、学校の友達はもちろん、家族、先生、地域の方など、自分を取り巻くすべての人が含まれるのです。周りのみんなが笑顔になるために、自分はどうすればよいのか、相手の気持ちを考えて行動できる、「気づかい」のできる御野っ子がさらに増えてほしいと願っています。



6年生ボランティアによる朝のあいさつ運動



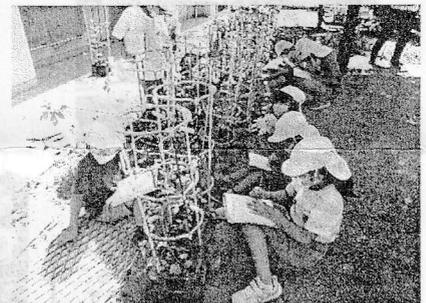
4年生は自主的に中庭をそうじしています

## 大きく育て！わたしの〇〇

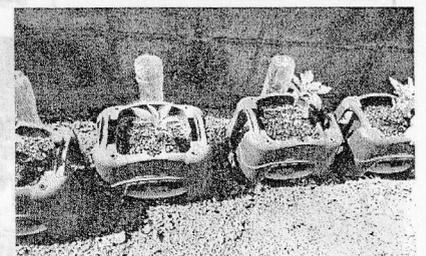


初めて育てるアサガオ、芽がどんどん出て

今年も生活科や理科の授業で子どもたちは様々な植物を育てています。1年生はアサガオ、2年生はミニトマト、3年生はハウセンカをそれぞれ自分の鉢で育てています。毎日水をやり観察を続ける中で、子どもたちはたくさんのことに気づいていきます。ただ大きくなったというだけでなく、葉の形や手触り、色、におい、茎の伸び方など、実感を伴って学んでいきます。そして、毎日見て世話をしながら、植物という「命」への愛着も育っていくのです。自分だけの植物を大切に育てていく経験から、今年も子どもたちは多くのことを学んでいきます。今日も鉢の並んだ中庭から元気な声がします。「見て、もう実がなりはじめてる！」「大きな葉っぱが増えたよ。」



ミニトマトの観察、そろそろ赤い実が



ハウセンカも日に葉が増えて